

イエス様の掟

マリノ E. デハクト Jr.

愛という言葉は辞書によれば、情熱的な感情だということです。例えば男女の間の恋とか、親兄弟のいつくしみあう心とか、人間や生物への思いやりなどの意味に使われています。愛によって男と女は結婚をしたり、家族は互いに支えたり、人間は生物を守ったりしています。愛の本質は何か相手により行為をすることだと思います。自分しか愛さないというのは愛と言えないでしょう。世界中でいろいろな暴力、犯罪が起っています。それらの原因は人間が高慢になっていることで、ある社会では愛がない状態になっています。自分のことのみが中心になって相手のことは忘れてしまうのです。それと同時に愛、思いやりもなくなります。それはキリスト者としてなつてはいけない状態です。キリスト教では自分ではなく、他の人に仕えるは非常に重要なことだからです。そして犠牲を捧げることも含まれているので、苦しみがあることは当たり前だと考えられています。イエス様ははっきり言いました。私の掟を守るなら、私の愛に留まっていることになる。ではイエス様の掟とは何でしょう。ヨハネの福音書ではイエス様がおっしゃいました。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛しなさい。これがわたしの掟である。第十五章 12 節」と。私たちはまずイエス様の愛し方を学ぶべきです。そうでなければ、主の掟を守ることができません。ローマの信徒への手紙ではこう書かれています。「しかし、私たちはまだ罪人であった時、キリストは私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。」と。それがイエス様の愛し方です。正しい人のためだけではなく罪人のためにもイエス様は自分の命を捨てました。これは無条件の愛と言います。私たちはキリスト者として成長するためにこのような愛し方を実行することは必要です。また忘れてならないことは、本当の愛には必ず痛みが伴っているということです。許し合うことも大事です。イエス様は十字架の上では「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているか知らないのです。」と祈りました。私たちはキリスト者として出来る限りイエス様の生き方に従うべきです。理想的な模範はキリストであることを私たちはよく知っています。新約聖書を読むとイエス様がどういうふうに愛を表したか分かります。子どもたちに対して、病気の人達に対して、食べ物がない人たちに対しての愛がすべて書かれています。ある意味では、聖書を読まないでイエス様の愛を知ることができません。時間を作って、短くても結構なので聖書を読みましょう。聖書はどんな言語で読んでも分かりにくいところがあるので、祈りとして読めばいいでしょう。学んだことを日々の生活の中で少しずつ実行

することができればよいのではないのでしょうか。